キャラクター名
寿 命（コトブキ ミコト）

プレイヤー名

シンドローム	エグザイル ソラリス	ワークス	UGNチルドレンA	カヴァー	高校生
オプショナル		年齢	17	性別	女性
覚醒	死	衝動	自傷	初期侵食率	34 %
出自	義理の両親	経験	UGNへの忠誠	邂逅	恩人

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値
肉体	2	1	0			3
感覚	1	0	0			1
精神	1	0	0			1
社会	4	0	0			4

HP	27
行動値	3
(非装備時)	3
戦闘移動	8
全力移動	16

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	2		射撃			ＲＣ	1		交渉		
回避	1		知覚			意志			調達	5	
運転：	1		芸術：			知識：			情報：UGN	1	
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
クリスタルシールド	白兵	3r+2	12	0		
		0				
痛みの城壁		8r+22				崩れずの群れ+がらんどうの肉体+デモンズウェブ+スプリングシールド+クリスタルシールド
激痛の城塞 ↑100		10r+22				《カバーリング》+《ダメ軽減(自身)》+《ダメ軽減(単体)》+《ガード》+《ガード》

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

合計装甲：	0	合計回避：	0

所持品	
コネ：噂好きの友人	
思い出の一品	

ロイス					
対象	感情(pos)		感情(neg)		タイタス	消費
Dロイス：亜純血	P		N			
音無 七凪	P	信頼	N	不安		
羅雁 春秋（ラガン シュンシュウ）	P	尽力	N	偏愛		
	P		N			
	P		N			
	P		N			
	P		N			

最大財産P: 18	残り財産P：

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果：非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果：コスト分のHPで復活								
がらんどうの肉体	1	3	オート	至近	自身	自動	ピュア	
効果：自分へのHPダメージを-[Lv+2]D								
デモンズウェブ	4	2	オート	至近	単体	自動	80%	
効果：対象へのHPダメージを-[Lv+1]D								
崩れずの群れ	1	2	オート	至近	自身	自動	-	
効果：カバーリングを行う								
スプリングシールド	1	2	オート	至近	自身	自動	-	
効果：ガード値+10								
ポイズンフォッグ	2	2	メジャー	至近	範囲(選択)	-	-	
効果：組み合わせたエフェクトを至近、範囲(選択)に変更								
戦乙女の導き	3	2	メジャー	至近	単体	自動	-	
効果：次のメジャーアクションのダイス+Lv、攻撃力+5								
狂戦士	2	5	メジャー	視界	単体	自動	80%	
効果：次のメジャーアクションのダイス+[Lv*2]、C値-1								
アクセル	1	1	セットアップ	視界	単体	自動	-	
効果：ラウンド中対象行動値+[Lv*2]								
命のカーテン	1	4	オート	視界	単体	自動	-	
効果：カバーリングを10m離れた相手に行える								
鍵いらずの歩み	★	-	メジャー	至近	自身	自動	-	
効果：								
物質変化	★	-	メジャー	至近	自身	自動	-	
効果：								
効果：								
効果：								

「"あの日"から…、私の肉体も、力も、命も、全て羅雁様に、UGNに捧げると決めました。」

HO1と同じ高校に通うUGNチルドレン
幼き頃に家族とともに大規模な交通事故に遭遇し、致命傷を負ったところでオーヴァードに覚醒、一命を取りとめる
事故によって両親は帰らぬ人となり、その後親戚の家に引き取られる

オーヴァードであることで学校でも周囲から距離を置かれ、義理の家族もどこか余所余所しく、常に孤独感を感じていた。
「自分は必要とされていない命なのではないか」そう考えていた彼女の元に、ＵＧＮ支部長の羅雁が接触、組織へと勧誘してきた。
自分という存在を受け入れてくれる組織の存在に感動し、ＵＧＮへ忠誠を誓う。

音無とはコンビを組みながら、仕事のノウハウやＵＧＮの世界について教えてもらっていた。
自分よりも長くこの世界で生きる彼に、仕事仲間としての強い信頼感を抱きながらも、同時に彼の思想の危うさに不安感を抱いていた。

「父さんと母さんの命を喰って、私はバケモノになってしまった。
バケモノの体がいくら千切れたっていい、それが好きな人の役に立つならば」
これが彼女の行動理念である。

彼女は、義理の家族やクラスメイトが異質な自分への嫌悪感を抱きながらも、それを隠しながら接していることへの息苦しさを常に感じていた。
他人と腹を探り合うような生活に辟易していた彼女は、純粋な感情の奔流、直截で衝動的な行動に、好意を示す傾向がある。
加えて、彼女は自分の能力が味方の支援や盾に適していて、それを使うことでＵＧＮの役に立てることを認識している。
それ故に彼女の中には「相手の敵意によって自分が傷つくことで、自分の存在価値を認識できる」という歪んだ価値観が存在する。